

2019 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
活動テーマ	被災地でリハビリテーション支援活動を行うための人材育成と組織作り

<p>①</p>	<p>②</p>
<p>③</p>	<p>④</p>

【目的】災害時に被災地で円滑なリハビリテーション支援活動を行い、震災関連死や生活不活発病を予防するための人材養成を行いたい。

【実施方法】 定例研修会として、講義、演習を行い、阪神淡路大震災と東日本大震災の時期に合わせた特別講演会の開催を行う。

【実施方法】

1. 定期的な研修会として、すでに標準的な学習ツールとなっている BHELP(日本災害医学会が開発)を 2 回、REHUG(熊本県理学療法士協会が開発)を 1 回、HUG(静岡県が開発)を 1 回開催した。(①)
2. アウトドア防災ガイドを招聘して、医療の外からの視点で避難所での生活支援のコツや防寒・防水のノウハウを教授いただいた。(②)
3. PFA(Psychological First Aid; 心理的応急処置)の研修会の開催をサポートした。
4. 災害時のトイレ問題の取り組みや聴覚障害者の被災体験の講演会をサポートした。
5. 重度身体障がい者の支援のための講演会を 3 年続けて行ったが、今年は、行政(大阪市)からの話と、NPO からの話の双方を聞き、知識を深めた。(③)
6. 第 25 回日本災害医学会(神戸市)で学会発表を行い、当会の活動を広報した。
7. 「地域リハビリテーションと災害リハビリテーション」というテーマで特別講演会(梅田にて)を開催した。リハビリテーション医療の草分け的な先生および、JRAT の現代代表と事務局長から、阪神淡路大震災の時の災害時支援活動から、今年の台風・水害被害の支援活動までの話を伺った。(④)

【活動成果】

1. 災害時支援活動ができる人材が増えた。
2. 研修会を企画・運営できる人材が増えた。
3. 災害リハビリテーションの歴史と最新知識を学べた。